

虹の架橋

niji no kakehashi

今月の題字 安西未佳さん

(みどり市地域おこし協力隊)
香川県高松出身の安西さんは平成31年からみどり市に住み、SNS等を活用して地域の魅力を発信中。みどり市の貴重な人材として更なる活躍を期待しています。

今年もチャリティイクルビズ

東日本大震災の年から始まったみどり市の「チャリティイクルビズ」の取り組みは、役所の職員やみどり市民が同じポロシャツを購入し、ポロシャツ代金に含まれている三百円の義援金を東北や熊本に被災地に贈る活動を続けてきました。これまでに送った義援金は累計で399万円。昨年からチャ



リティ分は新型コロナウイルス対策に使われています。今年も、みどり市の新規採用職員18人が5グループに分かれ、みどモスを使ったデザインを考えた結果、みんなで新型コロナウイルス感染症を終息(ゴール)に導こうという思いと、東京オリンピック、パラリンピックのゴールテープをみどモスが走り抜けるイメージを「Get a GOAL」という文字で表現しました。袖の「Team Midori」は、みどり市民が一丸となってゴールに向かうという思いを込めています。刺繍の型を作るにあたっては、みどり市地域おこし協力隊の安西未佳さんにお手伝いしていただきました。ポロシャツのポロシャツは5色。サイズはSから5L。税込千六百円の中には義援金が300円が含まれています。お申し込みは足利屋、または、さくらもーるアスクへ。



小耳にはさんだ

六月十日から二十日まで、さくらもーるのセンターコートで『星野富弘・花の詩画展』を開催しました。期間中の来場者数は千名を超え、「富弘美術館を囲む会」に入会した方もたくさんいました。星野富弘著『いのちより大切なもの』の中に富弘さんが入院中の時のことが記されています。



いい話
(文責・靖)
《311》

いのちより大切なもの

にくわえ、息を吹き込んだり吸ったりして管のつまりをとってくれたのです。母親にしかできないことだと思えます。...

この話を読んで以来、富弘さんの「ペンペン草」という詩がいつそ心の中に響いてきました。神様がたった一度だけこの腕を動かして下さるとしたら母の肩をたたかせてもらおう

風に揺れるペンペン草の実を見ていたらそんな日が本当に来るような気がした

また、東日本大震災の時のこと

世界一小さな 定利屋 トイレ美術館

今月の写真《311》 松崎 靖『本当の幸せ』



六月二十一日、ネパール在住のOKバジこと垣見一雅さんから電話をいただきました。垣見さんは八十二歳。いつもと変わらぬ明るく澄んだ青年のような声を聞いて嬉しくなりました。十二年前に初めてネパールへ行った時のことを思い出しました。あの時の写真にはネパールの素朴な自然と村人たちの慎ましい生活の様子が写っていました。「ネパールの山奥で、幸せを味わうには多くはいらない。小さなことに感謝できる心があればいい」という垣見さんの生き方を見習いたいという思いも思っています。

も記されています。「津波が迫る中、水門を閉めるために津波のほうに向かって走っていった人、人の波に逆らうようにして、「津波が来るぞ」と知らせを回っていた人、その人たちは皆、自分のいのちより大切なものに向かっていた人ではないかと思えます」

いのちが一番大切だと
思っていたころ
生きるのが
苦しかった
いのちより
大切なものが
あると知った日
生きているのが嬉しかった

靖ちゃん日記

令和三年六月二日(水)
今日も孫の琉馬と庭で競争した。足利屋の裏から、母屋の横を通り、稲荷様の前を走り抜け、裏通りまでの70mを全力で走った。稲荷様のあたりで息が苦しくなった。琉馬に追いつけると思った瞬間、足馬に追いつれ、体が宙に浮いて、「大」の字に転んだ。両手と左腕の皮がペロリとむけて血がふき出した。何度も「おめん存せい」と言ってる琉馬が泣き出した。愛妻の運転で近くの医館に行き、心急手当てしてもらった。皮がむけた手のひらに小石が刺さり、それをピンセットで取ってもらったときの痛さは転んだ時より10倍も痛かった。2時間後、琉馬が母親と医館の駐車場まで来て待っていた。手紙を持っていった。「じーえ、はやくよくなっぺ。こんどわお水がまもるからぬ。いつもほんとにありがとう」と書いてあった。痛みを忘れ嬉しくて泣き出した。琉馬に勝てるのは、年齢だけになった。

今回の詩画展を何度も観てくれたSさんの感想を読んだとても感動しました。「いのちより大切なもの」が解らず本を買いました。あつ、私のいのちより大切なものがありました。富弘先生、教えていただきありがとうございます。私は臍臓を摘出して、今はインスリンの力で生きています。今まで私は薬で生かされていると思っていました。でも、これからは自分で生きていることにします。大切な人たちの為に！



六月二十日、さくらもーるでの「星野富弘・花の詩画展」が終わりまりました。ホッとしたところでその晩、LINEでコロナワクチンの予約をし、二日後の二十二日には一回目のワクチン接種が無事に終了しました。晴れ晴れとした気持ちになり、今度はコロナ太りも何とか克服しようと思ひ、スクワット運動を始めようと考えています。今まで暇があればポテトチップスを買って、コーラを飲んで憂鬱を紛らわせてきました。これからは「飲む・鬱・買う」をやめて、健康で明るい生活を心がけようと思ひます。

虹の架橋を検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第312号は令和三年八月一日(日)発行予定です。

やっちゃんの似顔絵提供...ひさかさん